

幼児の談話に就いて

—— みどり會繼續研究會の速記 ——

(文責在記者)

内 山 憲 堂

私は幼児童話につきまして、皆さんの前で特にお話する
様なたいした事も考へて居りませんが、唯童話に對して疑
問を持つて居ます。特に幼児童話に關心を持つて居りま
す。今日は皆さんにお話するこいふよりも此處で御一緒に
研究させていたゞく絶好のチャンスだと思ひます。

私が近頃喜んで居ります事は、幼児童話について關心を
持つ人が多くなつて來た事でありませう。幼稚園に於て、家
庭に於て小學校低學年に於て幼児童話に關心を持ち、注意
をはらひかけて來た様であります。私は四五日京都で暮し
て二三日前に歸つて參りましたが京都で色々の會合、座談
會に出席致しましたが、今迄はそんな傾向がなかつたのが
其の色々の席上で幼児童話に對しての質問の矢が放たれる

のです。佛敎經營の大學の座談會でも幼児童話が問題にな
つて居ました。今迄童話の部分的な技巧的な質問が多かつ
たのですが、例へば子供が大きな會場に澤山居て盛にさわ
いで居る、其の時に自分が檀にのぼつて話をする時には、
さうして靜めたらよからうかとか、夜、話をする時には電氣
がきの様な位置の所にあつたらよいかとか又、學校では御
眞影の安置されるべき所に對してさういふ風に敬意をはら
つてからすべきものか後を子供に向けて禮をすれば子供の
注意が亂れるかといふ様な事ですね。それが此の間は幼兒
の童話そのものに對する質問が大變にふえて來ました。最
近の出版物について見ても、非常に人々の考が幼児童話に
向つて來た事が分つて非常に喜ばしい事を存じます。一體

幼稚園において今まで、お話し観察はほつたらかしくされて居た傾向がある様ですね、唱歌、遊戯等ははなやかですが、まあこの附屬幼稚園は別として、私立の幼稚園では、子供に何かはなやかに躍つたり、唱つたりして貰つた方が人氣があり、父兄に喜ばれるので、さうしても遊戯、唱歌の様に、第三者にすぐにしめせるものが歓迎され、又保姆さんもそれによつて自分の腕をみこめて貰はうとするのでせうか。その爲に自然時間をそれに費ひやすいといふ事になります。其の爲に私立の幼稚園では第三者に對しない、子供と先生との間の物つまりお話等についてはあまり考へられて居なかつたのです。

ところが童話は子供が非常に喜びます。毎日話してくれくれと言はない事は無い位ですが、先生はしない、なかなかしないです。私も今小さな幼稚園をやつて居ますが、一週に一度は一人の先生が全體にして、後は隨時にするといふ事にして居ます、其の一週だけのは皆で聞いて批評し研究し合ふ事にして後は隨時にする事になつて居るのですがなか／＼出来ない様です。子供の氣分が向いて來た時

に「よし、お話ししてあげませう」といふ氣になれないのですね、數日も前から本を讀んで暗記してそれから、よいふ事に重い物をして取扱はれて居るらしいのです。今日も或組の先生がピアノの前に椅子を四五脚竝べられたので子供はお話し思つたらしく「お話だ、先生お話しせう」と喜んで居る。先生は「いゝえお話しやありません、今日は唱歌をするのです」と云ふので子供は「何だつまんないや」と失望して居ます。なぜ子供が希望して居るのに短い物でも一つしてやれないかと思ふのです。それではあんまり可愛想ですから遂々私が出て行つて短いのを一つしてやりましたら大變喜びました。一寸やればいゝのにやらない。特殊的な重い物とされて居るのです。

それは一般の先生方が悪いのではなく、今まで童話のあゆんで來た道が間違つてゐたと思ひます。委しく話せば童話の歩んで來た道、歴史といふ事になり、長くなりますが、かんとんに申します、今までの童話術は大眾を相手にしたものなのです。亡くなられた巖谷先生が童話をするといふ事を昔のいわゆるお話の術を應用してはじめ

られたものです。それから童話を話すこいふ事が最近の四十年間非常な進歩で普及され進んで来たわけです。一體日本位大衆を相手にして童話を話す所はないのです。百人から五百人多くは二千三千人の子供を集めて話すのですから、アメリカの人達はむしろ驚異だと言つて居ます。亞米利加の圖書館あたりでするのは五十人多くて百人位で何千人こいふ子供に向つて話す事は日本だけです。これは日本の話術が世界的であるこいふ喜ぶべき事でありませんが、反面にあまりに童話が大衆を相手にする物になつてしまつて、ラジオでも一般童話家こいふ特殊なもののみこめられて、専門的になりすぎてしまつた傾向があります。その爲に家庭のお母さんから、幼稚園の先生からの童話がなくなつてしまつて童話は専門家がすべきものこされてしまひました。

童話に對する色々の議論も童話をのものを一くりにして論じられて居ますが、幼児童話は特殊の物であるこ思ひます。大抵の人が論じて居るのは大衆童話で、童話には感激がなければいけないこか子供の心にうつたへる物が必要で

あるこいはれて居ます。大衆童話にはそれは必要ですが、五人や七人の子供を前にした幼児童話には、そんな物は必要ないこ思ひます。大きい子で澤山集つた場合には其の子供の心に何物かを與へる事は勿論必要ですが、それを幼児童話にあてはめるこそこに矛盾が起るこ思ひます。幼児童話は今まで間違つて取扱はれて来たのですから、これを元にかへし、白紙から出直して考へ度いこ思ひます。童話はずづかしいと言ひますが、話そのものはむづかしいのではなく、童話家専門家を標準にしてやらうこするからむづかしいのです。だから重荷になつて幾日も前からおけいこしてからでなければ出来ないこ云ふ事になるのです。普だん子供こ話して居る其のまゝをお互に話したらいゝこ思ひます。互話こ言ひますが自分の平常話して居るまゝを子供に話して行くべきであります。童話は子供の生活である以上は子供の生活にふれて行かなければなりません。子供にふれるこ云ふ事は皆さん毎日遊戯をし、唱歌をし手技をしてふれて居るわけですから其の様に話してふれて行けばよいのです。

幼稚園におけるお話を分類することがゆるされるならばこれを大きく二つに分けて

先生が話す——聞かせ方

子供が話す——話し方 の二つになると思ひます。

更に先生が話す場合を二つに分けて、童話と自由談話、子供が話す場合も同じく童話と自由談話とに分けられると思ひます。

先生が話す(きかせ方) 童話 自由談話

子供が話す(話し方) 童話 自由談話

童話そのものを話す時も談話であるが、自由に話す時は観察に近づくがこれもお話に入ると思ひます。すなわち雨が降れば雨の話といふ様なものであります。

今まで子供に發表させるといふ機會が少かつた。之は童話でも自由發表でもよい。これは非常に面白いと思ひます、子供が話す事を聞いて居るに非常に勉強になる事が多いと思ひます。たまへば月曜日には日曜にあつた事、お休後には休み中の面白かつた事といふ工合に。童話そのもの

も時々話させますが、私の方では時々茶話會を開いて、お菓子をしていただきながらはる／＼させて居ます。面白い事には、朝私が皆にきかした話を、午後の時間に得意になつて話して居る事があるのです。自分が始めて皆にする様な顔をして居ますが、子供は案外聞いて居ます。中には三人「朝の話と同じだ」云ふ人もありますが他の人がだまつて聞いて居るのでだん／＼仲間になつて聞いて居ます。

子供の自由なお話の中には我々の參考になる事が非常にあると思ひます。今日もKさんが

「昨日銀座に行つて、三越に行つたの。そしたら夜になつたから僕一人銀座に泊つたの、そしたらおばけが出て来たから僕切つちまへに切つちやつて朝歸つてきた」云ひます、之れは三越に行つた所まで現實で後は想像の世界には入つてしまつたのです。又休暇中の話で

「お休み中に逗子に行つたら、お隣りにミイダーさんといふ西洋人が居て仲よく遊んだ、とても面白かつた。先生、西洋人のお鼻はアラ／＼ね」。面白い事、おかしいな鼻がアラ／＼はさういふ意味かさよく考へて見ました

ら、高くてミがつて居るからなのです。大人ならわし鼻ミでも言ふでせうが、子供は、實に奇想天外な表現をします。此の間も東郷さんの繪を見て海軍記念日の話しをして居ましたが、

「東郷さんは強いなあ、勳章をあんなに澤山付けてらあ、外の人ならこんなにつけたら重くて倒れちまふのに東郷さんはちやんこ立つてるよ、偉いなあ」ミ云つて居ました。面白いですね。

この間或將校の子が

「此の間横須賀に行つたら、東郷さんの軍艦はりつけになつて居たよ」ミいひますミ他の子供が

「そりやそうさ、東郷さん死んだからはりつけになつたのだ」ミいつて居ました。

日本の子供は一體に發表が下手です。幼稚園でも半分位の子供はだまつて居る様です。聞いて居る時には大きい聲で何か言ひながらいざ一人で發表さなるミ出来ない。特に女の子は下手です。自由に發表させることは發表の練習にもなり大いに必要な事ミ思ひます。

童話を話し童話をきかせる事を生活ミして行きたいと思ひます。いわゆる童話家の平常幼児ミ生活を共にしないで机の上で作つた物よりも幼児に對する經驗があり學問もある方がなさるのが最も適當ミ思ひます。此の間も一人の子供がゐないミ言ふので四五人のお友達が一生懸命探して居るのです。ミこを探しても居ないミ先生の所に云つて來ましたので下駄箱を探したら分るでせうミ先生が言ひました。先生の氣持では下駄の有る無しで其の子供が歸つたか否か分るミ思つたのでせう、ミころが子供は、

「あゝそうだ。下駄箱の中にかくれて居るかも知れないよ」ミ大急ぎで探しに行きました。つまり大人の生活ミ子供の生活はまるで異ふのです。

兎に角幼児童話を特別の物ミして取扱はずに子供の生活の中に見出して、お互に話す氣持で隨時隨所に話して行きたいミ思ひます。子供がお話しをミ云つたら「おいそれミいつて與へられなければいけない、此の點から云へば遊戯や唱歌よりもつミ自由性があるミ思ひます。遊戯は友達がなければ躍れず、ピアノがなければまあ出来ない。手技

でも紙がなければ鋏が與へられなければ出来ないのにお話は、お庭の木の下でもお室の隅でも子供がお話云云へばすぐ出来る。ポケットの中のビスケツトを與へる位の軽い軽い氣持で自由に與へて欲しいと思ひます。

大體これで私の幼兒童話に對する考の一端をお話したわけではありますがこれで切りまして、後はお互にこゝはさうしたらよいか云ふ様な事を質問し合つて御一緒に研究したいと思ひます。

* * * *

司「では皆さんさうぞ御質問をお願い致します」。

A「お話を致して居ります時に、他の子達は一生懸命きて居るのに、先生それは作つた話だね、云ふのですがさういふ時にはさうしたらよろしいのでせうか」。

内「よくさういふ子があります。さういふ質問をした子には辯解する必要はないと思ひます。先生鬼はあるのですか、ミ聞いた場合に、「昔はあつたさうですが今はない様です」こか、「人が悪い人をたきへて鬼云云つたのです」こいふ様に辯解するよりも、御本にはあるのですこ

いふ様な取扱の方がいゝのじやないか思ひます。子供の中には大人の教へる現實を其のまゝ受取つてゐる時があつて、

「雷がなるけれ共こわくないよ、あれは電氣だから」云つて居る子供がありましたのでこれは偉い事を知つて居るミ驚いて居ましたところ、其の中に扇子であふぎながら扇子の中から風が出て来るく、喜んで居ましたので安心しました。やつぱり大人が教へたのだなと思つて」。

B「月曜日に、日曜日にあつた事を話して云つて机で順に言はせて居まして一人残らず皆するのですが、さういふ時に真似をする子があるのですがけれど、さういふのはさうしたらよろしいでせうか」。

内「真似ますね、自分の頭にない子供は真似るより外に仕方がないですからね、晝でもさうです。發表能力の無い子供達は上手な子供のを真似て居ます。大人ならヒントを得て書くに過ぎないでせうが子供は全體を真似してしまふのですね、何故さうするかミ問ひつめたら困るでせ

う。

B「問ひつめた事はありませんが困るだらうと思ひます。

其のまゝにして置いて差支へないものでせうか。したいしたい云ふのでして居ましたが、あんまり真似して恐ろしくなつたのです。子ぎもは真似して居る云ふ意識は無い様ですが、一人が三越へ行つた云へば私もくミ二十人位同じになつてしまひます」。

内「真似する云ふ意識は無いでせう。今度はその真似する人を先にして、能力のある人を後にしたら如何でせう」。

B「模倣しても言はせる方がよろしいでせうか」。

内「それは言はせた方がよろしいでせう。それが積り積つて段々に自分の持つて居る事を言へる様になるでせうから」。

C「これは技巧には入るかも知れないのですが、話す人の事ですけれ共、話す人が先天的に小さい聲の時に五六十人に話さなければならぬ場合最も有利な竝べ方はどう致したらよろしいでせうか」。

内「保育室では先づ角を取るのですね。後が二方壁、又は

窓の所は窓を全部しめて、子供を自分が立つて子供の頭に手をやれる位の近さにして扇形にならばせて、ぎつちりつめて、小さい子を前に大きい子を後に竝ばせるのですね、そんなに大勢で無い時でも、そうした方がましまりがついて、聲の反響がよいのです」。

C「扇形に申ししてもぎの位にしたらよろしいでせうか。横の人はどうも工合が悪い様ですが」。

内「自分を中心に五十度位に開いて、横まで来ない様になければ、やつぱり顔が見えなければ話せませんね」。

B「さんの方で全部の子供が話されるのは、何か特別に訓練されたのですか」。

B「いゝえ、別に訓練も致しませんけれども、私共の様に下町の子は割合にはにかむ子が少なく、何でも言つて來ます。山の手の幼稚園に居た事がありますが、随分異ふと思ひます」。

内「ごなたか子供に話をする様に訓練なさつた方がありませんか、ありましたら是非其の御経験を伺はせて下さい」。

私の幼稚園でも一學期の末に約三分の二はするのですが三分の一の子供はなかなかしません。ヒントをしぼく、與へますがしないので何かよい工夫にないか色々考へて居ます」。

D「話をして居る時に、話す事の好きな子供に聞く事の好きな子供があつて、聞く事の好きな子は一生懸命話の筋に注意してそれからくさいふ様に聞いて居ますが、話す事の好きな子はお話の中から色々聯想を起して話しかけますのでとても困りますが」。

内「お芝居をだまつて見て居るのが観賞であるのと同じ様に、聞くことも観賞さもないへませうか、また一つのおけいこですね。色々子供が話しかけて來ましたら、其れを上手に話の中に取り入れてしまつて話を進めて行くのです。子供の言ふ事に一つく返事して居てはかんじんの話の方が進めて行かれませんか。例へば猿のお話をし様にして『さあ今日は猿のお話をしませう』と云ふこ、

『先生 こないだ僕動物園に行つたら猿居たよ、キリンも居たよ、それから熊もそれから』と云ふ様な時に一々

これにこだわつて返事をして居たら、なかなか話は進められませんが、ですから『あゝそうですか、今日は其の色々な動物の中のお猿の話をしませうね』と云ふ様に云つて話を進めてしまふのです」。

E「子供はお話が好きでもつゞくことを要求しますが一度にいくつ位また何分位が適當でせうか」。

内「私は一度にはまつ一つ、幼稚園全體の場合には十五分内外。四歳児には七分、五歳児は十分、六歳は十五分、七歳は二十分位さいふ大體の標準を立て、居ますが、子供の疲勞がありますからむやみに数多くは考へものではない。勿論午前午後、天候、聞きなれた子となれない子等によつても随分異つて來ますけれ共、二十分より長くなるに疲勞していけないでせう。一人の子供の慾望を満す爲に他の子供を疲勞させる様になりますから」。

F「話す人が變るこ、音聲が變つたりして、疲勞は餘程異ふものでせうか」。

内「それは異ひます。黄色い高い聲の人は疲勞が多く、低くて小さい聲の人は疲勞が少ないと言ふわけになりま

す、話し方の早い、おそいにも関係します。同じ人が十五分間續けるの三人が變つて二十分話すのミ大體疲れ方が同じ様になります」。

F「三人位話し手が變るのミ三つ位きくのですけれ共」。

内「一人何分位でせう」。

F「まあ十五分位ですが」。

内「それは多すぎますね、一人十五分なら三人で四十五分ですから、一人十分位ならまあ三人でもよいでせうと思ひます」。

F「お室ご、屋上、お庭では疲勞の關係はさうなりません」。

内「疲勞は室内が一番多いのです、其のかわりよく注意がまごまります。つまり同じ場所でも夜電氣の下でするの一番よく聞きますが、其のかわり一番疲勞するものです、客席の電氣を消してステージだけつけておくあの方法も、つまりよりよくきかせる方法ですが、其のかわり非常に疲れます」。

G「お話をして居る中に現實から空想にうつてしまつて、

ミても大きい事を言ふ子があるのです」。

内「それが普通の空想程度ならよいですが、病的の子はいけません。素人では一寸それがよく分りませんが、あまり病的のを助長するミ、よくある例ですが、仁術で汽車をこめ様ミ線路に立ちふさがつて汽車をこめて、本當に汽車が仁術でこまつたミ思つて得意になつて居るさいふ様ながあります。そんな子は百人に一人か、五百人に一人位なものでせう」。

G「それ程病的のさいふのでもないのですが、段々つけ加へて言つて、面白くし様くミするのですが」。

内「つけ加へて行つて面白くするのは一つの創作ですから、こめないでもいゝでせう」。

H「嘘を言ふ子供があるのですが、お家でも嘘をつくミおつしやつてお母様がミても心配して居らつしやるのです。例へば

『昨日洗足の池に行つて遊んだら面白かつたよ、その中にボートが沈んで僕お池に落ちて死んぢやつたよ』等に言ひます。こんなのはこめないでよろしいでせうか」。

内「先生をこまかしてやらうさいふ氣持ちで言ふのではな

いでせうね、家庭でいふ嘘は或は現實の嘘であるかも知れませんが、それはごめなければいけません、今の話の様なのは、單に話ですから、嘘ではないのです。現實がは入つて來なければごめなくても差支へありませんね。

畫でも子供がよく書く人の畫が頭からすぐ手足が出て居ますが、嘘の畫だとは言へないのと同じです。子供の發表なので、子供はそう感じたのを發表したのですから嘘ではありません。それと同じでせう」。

F「先程の疲勞の問題のつゞきなのですが、三十分位過ぎた後でも全體がもつこきゝたいこいふ希望の時はしてもよろしいでせうか、

一寸意外に感じる事は、屋上でして居ます時は、三人でかはるゝするのですが、始に黄色い高い聲の人、次に低い聲の人こいふ様にして、三つ位してもまだしてゝこ言ひます」。

内「きゝ方の訓練がしてあるのでせう、それによつてもずい分異ひますからね、疲勞が一寸も見えなければ差支へありません、後には長いのはいけませんね。短いあつさ

りした物をする事です。三つ位する場合は、始め少し長い物、次に短い物、後は中位のものとする様にしたらよいでせう」。

I「私の方でも一度に三つ位してくれと言つてきかないのですが、其の場合今までのものを何度でもきゝたがりますが、後で今までのものをした方がよろしいかそれとも、先にした方がよろしいでせうか」。

内「どちらでもそんなにかまひませんが、後の方がいゝでせう」。

J「内容には入るのですが、年長組になりますとかなり複雑な物を要求致しますが、程度はどの位までよろしいものでせうか」。

内「幼稚園でする程度の童話はリズムによつて綴られて居るので、話の筋そのものにはあまり興味を持たないのです。部分的興味ですから同じ話を何度きいてもよいのですが小學校から、幼稚園の卒業頃になつて、筋に興味を持ち出すと、かなり複雑なものを要求して來るのです、程度こいつても一寸困りますが、話をきゝつける

「むづかしい物でもきゝます。先づ假に例をあげれば七匹の小山羊の話、三匹の小豚、大江山、かち／＼山を多少かへたもの等いゝでせうが浦島あたりは少しむづかしいでせう」。

K「コードモノクニのお話等を讀んで聞せる事が御座いますが、お話に飽きてしまつて次の畫を見たくて頁をめくつてしまふのですが、本を讀んできかせるさいふ事はよろしいでせうか」。

内「それはよろしいです。本を見せながらお讀みになるので、次の繪が氣になるのですから本はこちらに取つて置いて、ぎん／＼話を進めて、後で繪を見る様にしたらよろしいでせう」。

K「讀んで聞かせる時は何人位までいゝでせうか」。

内「何人でも結構です、三十人でも五十人でもいゝでせう」。

F「私の方でも本を讀む事をとても好みます。コードモノク

ニや子供の友、小波さんの假名書の本、武井さんのもの等喜んできゝます。或時迄お話が濟んだら繪本を見せ、

又話をつづけるさいふ様にして居ます」。

L「お話最中に立ちだす子供があつて、一人でお話して居る時には困るのですが、其の様な時吐つて座らせて置いてよろしいでせうか」。

内「お話の中でもう一度子供の注意をまごめる様にして見るか、お話の中にリズムの様なのを入れて一緒に言はせて見るか、皆で其のリズム的な所を手を打ちながらやるか、何か方法を用ひてもう一度興味を持たせるのです。吐つてはいけません。そういう事は注意の散慢か、非常に我儘に育つた子でせう」。

M「話の全然嫌ひな子供つて御座いますか」。

内「家庭によつてあまりお話の經驗をしないで來た子供は始めはきゝませんが、段々きく様になるでせう、特殊の病氣以外には。

家庭が大きな影響です、年中ざわ／＼した様な家庭の子はあまりきゝたがりませんね」。

N「先程かち／＼山を多少かへて、きおつしやいましたが、どの程度に先生はおかへになつていらつしやいますか」。

内「さあ、あんまりかち／＼山は致しません。まあかへ

てすれば

おぢいさんが山から狸を取つて来て家につるして置いてお婆さんがお餅をついて居る間に、お婆さんをいぢめてだまして逃げ出してしまつた。さか……。

私も小さい時にお婆さんから聞かされた話では随分慘酷な話でお婆さんを狸が殺して、糞汁にしてお爺さんにたべさせて、お爺さんがおいしい〜と言つたと言ふ様に本にも書いてありますが、お婆さんを食へさせる必要はありませんからいぢめた程度でいゝでせう、まあ悪い狸だと言ふ事になればよいのですから、兎のかたき打の所も山に薪取りに行つて音がしたら狸があつたと言つて大急ぎで逃げて歸つた。後で海へ舟をこぎに行つて、泥舟ミ木舟に乗つて行つて狸の泥舟を沈めてしまつた、こいふ様にしたらさうでせう、此の場合狸が御めん〜こあやまつたので助けてやつた事にしても差支へないと思ひます、火傷をして痛くてころげ廻つたの、唐芥子みそを張つたこいふ様な事は抜いてしまつてよいでせう。

〇「お話の最後は悪い者があやまつてよくなつたこした方

がよろしいでせうか、それこそ悪い者はどこまでも悪いとしてほろぼしてしまふ方がよろしいでせうか。

内「改心をさせた方がよいかとおつしやるのですか」。

〇「はあ、改心させるか、又あんまり慘酷でなくほろぼした方がよろしいのでせうか」。

内「子供の中には詩的藝術的正義さいふものがあつて、正しい者は榮え、悪い者はほろびる事を期待して居るものです。大人の場合には反對に却つて悪人がはびこつて、善人が苦しむと言ふ様な悲壯悲哀の中に藝術味のある事が澤山あります。或人は滅ぼす事は慘酷だと言ひます。私も始めは殺さずに助ける主義でしたが、たゞへば七匹の小山羊の狼が、子山羊のお母さんにお腹をチキ〜切られて子山羊が逃げ出して、石をつめられてから、水を呑みに行つてお腹が重いので水の中に落ちる所を、助けて來ましたが、子供は沈んでしまふ方がいゝらしいですね、其の方が子供達は如何にも満足したらしい顔をしてきて居ます。

大人の考へる死さ、子供の考へる死さは大いに異ふの

で、子供に取つては死はあまり悲哀ではないのですね。

ですから大人が考へる程死をさげなければならぬものでもないと思ひます。子供達はよく人が死んでも、お客が澤山あつたり、花輪が来たりするので、案外はしいで居たりするものです。唯お話の中で死ぬ場合に、千松が殺される様な工合に、これでもか／＼といふなぶり殺しの取扱をする事はさげなければなりません。もつミリズム的にブク／＼沈んで行きましたつてサ、其の程度にして置くのですね」。

P「お話の題はさういふ風に取扱つたらよろしいでせうか、始に題を申しますか、後から申しますか」。

内「それはさういふでもよいと思ひます。昔の話術です、枕を本筋に結びでなり立つて居ますがそれは幼児童話には勿論必要な事です。唯何か一寸挨拶的な事を言ふのは必要でせう。人が他の家に行つて一寸挨拶をする様なものですか」。

「今日は狼の話をします、或所にさういふ様に題だけボツ／＼出して行くのは變ですね、題を其の挨拶の中に織り

込んで行くのです。

「今日はよく雨が降つて居ますね、ぢやああの雨の好きな蛙さんの話をしませうか」さういふ様な工合に」。

Q「先日ヘンデルトグレーテルの話をしましたが翌日は直ぐ其の眞似ごつこをして居て、又今日もヘンデルの話々も申します、あゝいふ鬼か、魔女の様なこわい話をしつてよろしいでせうか」。

内「子供がこわい話をして呉れ、言つた時にぢやあれからこわい話をしませうね、言へば子供は暗示にかゝつて、一寸の事でもこわい／＼と言ひます。

「今日はこわいおほびこの話をしませう」言へば巨人が出るこわい／＼と言ひますが、

「あのね、大人を退治した太郎さんと言ふ元氣な子供のお話をしませう」言へば一寸もこわがりません。

巨人、鬼、鬼婆等の取扱をこわい者にしてはいけません。それを童話的の鬼、巨人にしてしまひます。こぶ取の話でも

「頭には角のはえたこわい鬼が出て來ましたよ」等と言は

すに、もつミリズム的に、

『あゝ色々な鬼が出て来ましたよ、黄色い鬼や赤い鬼や、あゝ紫のも黒いのも太鼓や笛を持つてピー〜ド
ン〜躍りながら……』

等言へばこわくありませんね、

狼等をこわがるのも、家で狼はこわいと言ふ事にされて居るからです、狼等が羊を食べたりする時のもつミリズムミカルにお腹の中に、は入つて行く様に話すのです、舌切雀のお話でも舌を切る時リズムミカルにやれば一寸も舌を切らして差支へないと思ひます。」

R「家の小さい子供がお話〜を申しますが、又幼稚園に行つて同じ話をきいては興味がなくなりはいないかミ考へますけれ共。」

内「それはかまひません。部分的興味ですから何度きいてもよいと思ひます。さん〜しておあげなさい。」

S「先程のミ〜かへ日曜日に行きましたかミ聞いた場合に、唯「ミ〜へ行つた」しか言はない子が御座いますが、其の場合何かこちらから言つてもつミ誘導した方がよろしい

でせうか、其のまゝ置けば言ふ様になりませうか。」

内「そういう子は發展の構成能力が足りないのですからこちらから誘導して引出して聞いてやる事が必要です。」

S「ミ〜かへ行つた事を聞かぬ、しまひに先生が聞くから何處かへ連れて行つて云ふ様になつて困るのですが。」

内「こちらで何處〜へ行つた、ミ子供が言つた時に『それはよかつたですね』誰さんは一日お家それぢや面白い事ありませんね』といふ様に批評を下すミ、そういう結果になる事があります。こちらの聞き方でも『昨日はミ〜にいらつしやいましたか』ミ言ふ様に持ち出すのはいけません、批評をせずにあつさり聞いて居たらよいでせう、それに何も昨日行つた事はかりを聞かないでも材料はいつも澤山ありますからしよつ中それを聞かないでもよいでせう。『昨日の防空演習の時皆さんミ〜して居ましたか』ミ言ふ様な事も非常に面白いと思ひます。」

司「長い事色々ミ有りがたう存じました。皆さんまだノ〜伺ひ度い事はおありミ存じますが先生の御時間の御都合もおありでありますのでこれで閉會にさせて戴きます。」